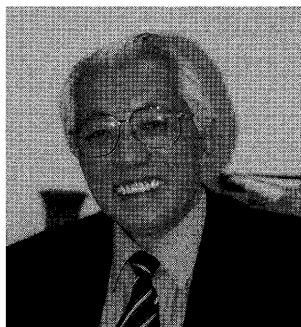


---

退官する先生方へ

---



高澤先生 ありがとうございました

高澤先生は本学開設の委員として参画され、特に社会福祉学部設置の責任者として開学以前からご尽力いただきました。その後の学部の年次進行に合わせ社会福祉学研究科前期課程・後期課程が設置できたことはひとえ先生の存在の所以であります。しかし先生は開設時から一教員として参画することを主張され、学部の責任者となられることはお身体のこともありまさに強く固辞されました。日本の社会福祉分野の理論家としてゆるぎない地位と名声を持つ先生が学部の柱になっていただかなければ本学部が成り立たないことは当時の関係者の誰もが思っていたことであり、最後は学部長をお引き受けいただきました。

ちなみに新設4学部のうち他の3学部長は早くに決まっておりましたが、社会福祉学部は相当遅れての決定でした。学部長の立場になられた後は、認可申請と開学準備、新学部の体制づくりと次々と斬新な理念を提示、今日の本学部の基盤を敷いていただきました。しかしながら先生はその素晴らしい理念を十分に現実化できなかったところもあったことをいまさらながら反省しております。

先生の斯界における研究者としての高い評価は上述のように学部申請特にも研究科の申請時に大変な力となったと思われまふ。私は社会福祉の学界は不案内でありましたが、学外の福祉の関係会議で高澤先生のところの者ですということをお話するだけで学界の相当な方々が本研究科の内容について好意的で高い評価とご支援をいただきました。こうした中、先生は折りあるごと体力的なこともあるからと研究科長だけでなく教授職についても辞意をもらされました。しかし、わたくしどもはなんとか大学院完成年次までのご指導いただきたいと懇願し、今日まで枉げてお留まりいただいていたところでもあります。

こうした不如意な状況が続けることは先生の信条やスタイルにそぐわないとお考えであったと思います。そのことは重々理解しながら、ここまで先生にご心痛をおかけしてきたことをまことに申し訳なく思っております。しかしながらまさにお陰さまで博士課程も完成年度となり、この間多くの学生・院生を社会福祉の諸分野に送り出すこととなりました。また学部完成以降、多くの新しい教員も参画いただき、さらに次年度以降にも新教員が加わることとなり、本学部の新しい発展の時期を迎えることとなります。

先生の盟友の故大澤隆先生と高澤先生との交遊はうらやましい限りでしたが、その大澤先生が畏敬とともに評価した高澤先生の研究者としての姿勢、また高澤美学ともいう生き方の信条はこれからの本学の教員にも強い影響を与えていくものと思います。悠揚せまらぬダンディな先生には、今後とも本学部学生、教員を折りに触れてご指導いただきたいと願っております。

細江達郎